

## 【目次】

1. 平成23年度春の例会の開催報告
2. 広島大学の教養教育科目「平和科目」の開講について
3. 「広島大学マスターズ」企画のロシア旅行の中止について

## 1. 平成23年度春の例会の開催報告

広島大学マスターズ広島では、会員間の交流と親睦を深めるために、春と秋に例会を開催することにしていますが、第1回の春の例会は、下記の通り広島大学宇宙科学センター附属東広島天文台を訪問しました。

日時：平成23年4月24日（日）18：30－19：30

参加者：広島大学マスターズの会員8名

場所：広島大学宇宙科学センター附属東広島天文台

東広島市西条町下三永695番地1

(TEL) 082-420-0979

(URL) <http://www.hiroshima-u.ac.jp/hasc/>

プログラム：

- 18：00－18：30 東広島天文台の設立経緯と活動について（セミナー室）
- 18：30－19：30 4次元シアター「宇宙の旅」の鑑賞（セミナー室）
- 19：30－20：00 国内最大級の天体望遠鏡「かなた」による土星・その他惑星の観察



東広島天文台について説明中の大杉先生



東広島天文台の天体望遠鏡「かなた」

広島大学マスターズ広島の会員でもある宇宙科学センター特任教授の大杉節先生に、最初に東広島天文台の設立経緯について説明していただきました。東広島天文台にある国内最大級の口径 1.5m の光学赤外線天体望遠鏡「かなた」は、東京都三鷹の国立天文台から平成16年に広島大学が法人化した際に、広島大学に移管されたもので、平成18年に東広島市の尽力により天文台建設の用地が整備され、現在地に設置されたものであるとのことでした。「かなた」を駆使して、さまざまな世界的な研究成果を上げられています。地域の子供たちや大人たちへの普及活動も積極的に行われているとのことでした。

天体望遠鏡「かなた」による天体観測の前に、国立天文台が開発した立体映像の宇宙シミュレーターにより宇宙の旅を楽しみました。想像の産物ではなく、すべて天文データに基づいて作られたコンピュータプログラムで、

時間を縮めて光より速く移動して、137億光年先の宇宙の果てまで、大杉先生の解説をお聞きしながら宇宙旅行を楽しむことができました。

最後に、宇宙科学センター長の吉田道利教授に天体望遠鏡「かなた」を操作していただき、土星を観察することができました。土星本体の模様や土星の惑星の輪を見ることができ、参加者一同感激しました。

## 2. 広島大学の教養教育科目「平和科目」の開講について

すでに本News Letterでご案内しましたように、広島大学が平成23年度から教養コア科目として、「平和科目」を25科目開講することになったことに協力するため、本会では東千田キャンパスにおいて平成23年度前期において「平和と人間Cー広島で学ぶ（原爆とは何だったか）ー」、後期に「平和と人間Dー広島から未来に向けてー」の2科目を担当することになりました。



東千田キャンパスでの平和科目の授業風景



講義中の担当講師最高齢(1929年生)の高橋衛先生

平成23年度前期の第1回目の授業が、4月11日（月）18時から19時30分まで東千田キャンパスの東千田校舎5階501号室で開講されましたが、開講状況についてお知らせします。

1回目の授業では、本会の代表幹事の渡邊一雄先生が、前期に開講する「平和と人間C」のシラバスに基づいて、授業の構成、成績の付け方を説明され、聴講の心得などについて注意をされました。

本授業は、11名の講師によるオムニバス形式の授業であることから、各講師にそれぞれのご専門にしたがって自由に話をしていただくことになっていますが、全体の構成としては、（1）平和の反意語としての戦争とは何か、（2）原爆とは何だったか、（3）原爆の威力とそれが残したものについて、という3部構成になっています。

聴講にあたっての心得として、渡邊先生は、（1）ノートを取り、考えながら聞いてほしい、（2）平和、戦争、原爆については、いろいろな考え方がるので、事実として直視してほしい、といった注意事項を学生諸君に話されました。

1回目の授業ということで、まだ履修者が確定していないためか、出席した学生は25名程度でした。広島大学マスターズ広島が講師を派遣するというので、1回目の授業には、本会の事務局の2名の幹事の他、2回目の講師の岡本明先生にもご出席いただきました。なお、本授業には、文学研究科博士課程後期3年生の下向井紀彦君がTAを務めてくれることになりました。

上掲の写真は、4回目（5月2日）の講義を担当された高橋衛先生の授業風景と講義中の先生の写真ですが、TAの下向井君に撮影してもらったものです。

なお、前期に開講の平和科目「平和と人間Cー広島で学ぶ（原爆とは何だったか）ー」は、次のような日程で各講師（氏名の後は退職時の所属）をお願いすることになっていますが、来年度以降も平和科目の開講は継続されますので、開講にご協力いただける方は、本会事務局幹事までご連絡いただければ幸いです。

第1回（4月11日） 渡邊一雄（総合科学部）ー 問題提起と授業の組み立て

### (1) 戦争とはなにか

- 第2回(4月18日) 岡本 明(文学部) — ナポレオン戦争とヨーロッパ  
第3回(4月25日) 井上研二(総合科学部) — 民族紛争  
第4回(5月 2日) 高橋 衛(経済学部) — 戦争と軍縮 I

### (2) 原爆とは何だったか——ある被爆体験

- 第5回(5月 9日) 植木研介(文学部) — ある被爆体験  
第6回(5月16日) 同 — 被爆と詩歌  
第7回(5月23日) 寺地 遵(文学部) — 被爆体験の重み  
第8回(5月30日) 北川建次(教育学部) — 被爆をどう伝えるか I  
第9回(6月 6日) 同 — 被爆をどう伝えるか II  
第10回(6月13日) 岩崎文人(教育学部) — 小説を通してみる原爆  
第11回(6月20日) 同

### (3) 原爆の威力とそれが残すもの

- 第12回(6月27日) 石丸紀興(工学部) — 復興と被爆建物の保存  
第13回(7月 4日) 武市宣雄(医学部) — 放射性物質は何を残すか  
第14回(7月11日) 宇吹 暁(原爆放射能医学研究所) — 被爆資料と総括  
第15回(7月25日) 渡邊一雄 — むすびー現在から未来へ  
第16回(8月 1日) 期末試験(渡邊一雄)

#### 【渡邊一雄代表幹事のコメント】

マスターズ設立の趣旨の一つは、「教育に対してわれわれ退職者もなお本質的な責任を果たしうる(のではないか)」という点にあります。この意味で、今年から「平和科目」の担当はマスターズの重要な事業であると位置づけております。現在、ご担当いただいている先生方のご努力によって成功裏に進捗中と感じておりますが、今後さらに多くの会員のご意見をいただきながら、マスターズのより良い活動への展開のきっかけとなればと考えております。

### 3. 「広島大学マスターズ」企画のロシア旅行の中止について

すでに本News Letterでもご案内しましたように、広島大学マスターズの前野先生に世話人になっていただき、5月27日から6月3日までの日程でロシア旅行の計画を立てていただき、広島大学マスターズと広島大学マスターズ広島の会員の皆様に参加者の募集が行われました。

参加希望者が催行最低人数の10名でありましたので、実施の方向で準備を進めていただいていたのですが、このたびの東日本大震災の影響などもあり、旅行を取りやめられる方があり、参加希望者が7名となりました。前野先生が、ロシア旅行社とも相談された結果、このような状況下では残念ながら実施は困難と判断され、旅行を中止させていただきたいとのご連絡がありました。旅行を楽しみに準備してこられた皆様には大変申し訳ございませんが、ご了承いただければ幸いです。

なお、参加申込をされた方には、ロシア旅行世話係の前野先生から別途ご連絡があったかと思いますが、事情ご賢察の上、なにとぞご了承くださいませようお願い申し上げます。

#### 広島大学マスターズ広島事務局

〒730-0053

広島市中区東千田町一丁目1番89号

広島大学東千田地区支援室気付

(FAX) 082-542-6964

(E-mail) masters2@hiroshima-u.ac.jp